

## 第4部

## 研究・実務のツールにする

よいよこれからは、研究や実務のために、皆さんが自分自身でオリジナルな人工社会モデルを作る番です。第3部までで学んださまざまな技法を適宜組み合わせて、作りましょう。しかし、モデルが動けば成功というわけにはいきません。単に動くだけでなく、研究や仕事の役に立つモデル、他の人を納得させるモデル、あるいは感動させるモデルを作らなくてはなりません。シミュレーションの分析も大事です。この第4部では、人工社会モデルを自分自身のモデルとして、自信の持てるものにしたたり、洗練されたものにしたたりする *artisoc* の技法を学びます。また、*artisoc* のモデル・シミュレーションとモデルの外の世界とのインターフェースの取り方についても考えてみます。そして最後に、技法から離れて、人工社会の考え方についても思いをめぐらせます。